

	発行者の略号	東書	教図
	書名	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①主体的に問題解決に取り組み、生涯にわたって技術を工夫し創造し続けられる資質・能力の育成を目指した編集となっている。1つの編は、「編の導入」「基本ページ」「学習のまとめ」で構成され、学習を深めるためのページやコラムも豊富にある。 ①「何度も教科書を開いてほしい」という思いから、教科書1冊を通して読めるパラパラ漫画がある。テーマは「技術は夢をかなえるためにある」で、子どもの何気ない発想から、ものづくりの試行錯誤が生まれ、宇宙での技術開発に発展するという物語。	①技術に興味・関心を持ち、時代の変化に柔軟に対応できる力、自らの手で課題を解決できる力を育成することを目標とした編集になっている。 ①「指導のしやすさ」「問題解決的な学習の進め方」「限られた時数での指導」など、教育現場の生まれた編集方針となっている。 ①基礎技能の習得をまとめた別冊「技術ハンドブック」と各分野に設計・計画ができるワークシートが付属されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①技術の原理・原則や基礎的な技術の仕組みについて、本文の内容を裏付ける図などを掲載することで、科学的な思考に基づく知識が習得できるよう工夫されている。 ②主体的に思考・判断・表現をしながら技術による問題解決に取り組むことを重視し、問題解決例では「私の工夫」が随所に設けられ、工夫・創造することの大切さと思考のきっかけが示されている。 ③巻末のSDGsや特集 Society5.0を通して、生活や社会と技術との関りについて紹介し、人が豊かに安全に暮らしていくために技術が貢献していることを伝え、豊かで健全な心が養われるように配慮されている。	①基礎・基本の知識と技能を1章で習得できるような章構成にし、幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮されている。 ②各編のまとめでは、技術の問題解決について考え、まとめることで、思考力・判断力・表現力の評価ができるよう配慮されている。 ③生徒自身が未来の社会を創造するという意識を持てるよう、未来の社会像をイメージできる「SDGs」「Society5.0」などを取り上げている。また、キャリア教育として、社会で技術を活かしている人、伝統的な技術を継承する人、社会で活躍する人々を特集し、生徒が自らの進路を想像できるように配慮されている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①巻頭・巻末に「SDGsとTechnology」をわかりやすく特集し、「小田原市学校教育振興基本計画」の『これからの 社会に対応した 教育の推進』に則り、持続可能な社会の構築に寄与する態度が養えるように配慮されている。 ②「ブレインストーミングや KJ 法など誰でも意見が言える言語活動」や多彩な学習法による、多角的・多面的に見る力を通して「箱根町教育基本方針」の『未来に大きな理想と明るい希望を持って貢献できる人』を培う教育を行うことができる。	①問題解決学習に適した設計・計画の立て方と実習題材を豊富に掲載することで「小田原市学校教育振興基本計画」の、『学ぶ意欲を高め、確かな学力 の定着をめざした授業の展開』および『個に応じた学習指導の充実』の一助となっている。 ②コラム「技ビト」を通して学習内容を社会・生活に活かすキャリア教育の視点から、「箱根町教育基本方針」の『未来に大きな理想と明るい希望を持って貢献できる人』を培う教育を行うことができる。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①技術を読み取る活動、施行ツールの活用、フィールドワークやインタビュー、まとめと発表の仕方など学習方法がわかりやすく示されており、主体的な学びができるようになっている。社会で活躍する技術に携わる方々のメッセージが「技術の匠」として掲載され、技術者との対話的な学びができるようになっている。「技術の天びん（最適化）」「環境」「防災」「情報モラル」「消費者」「伝統文化」などのマークで学習を深めるポイントが示されている。 ②「リンクマーク」で他分野の内容や家庭分野との学習のつながりを示し、「他教科マーク」で他の教科との関連を示している。また、「技術の見方・考え方」を示し、「技術の最適化」の例を紹介することで、職業観・勤労観の育成につなげている。(6) ④問題解決例を通して、「伝統的な建築と最先端技術の融合」「国際社会における日本の技術」「郷土への興味・関心」「継承することのたいせつさ」など考えられるようになっている。 ⑧⑨導入やまとめの活動の配置が固定されている。UD フォントやふりがな、図版やイラストの配置、カラーユニバーサルデザインも配慮されている。章末には、「技術の見方・考え方」をスモールステップで確認できるようになっている。	①すべての内容項目の章立てが共通化され、技術の基礎・基本がわかりやすく学べる構成になっている。また、実習の基礎技能は別冊の「技術ハンドブック」で確認しやすくなっている。進路の選択を考えられるように、「先輩からのメッセージ」のコーナーが設けられ、技術者・未来の自分との対話的な学びができるようになっている。構想を具体化するに当たり、思考の流れ、頭の中を整理できる表があり、学習を深めることができる。 ④伝統技術や日本の文化について考えられるコラムが設定されている。また、未来の社会像「Society5.0」の特集ページや、社会の発展と技術について自ら考察できるよう工夫されている。 ⑤題材の実践を通して問題解決の力がつく構成になっている。「技術ハンドブック」や「切り取り式設計計画表」など実習が進めやすい構成になっている。 ⑦技術が持つプラス面とマイナス面の両方に生徒の意識が行く工夫がされている。 ⑧⑨読みやすさの工夫がされている。見やすさ、情報量、文字サイズ、3文構成などが工夫されている。重要語句は青の太文字、資料は黄色のマーカーなど見つけやすい工夫がされている。
	(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①各内容の分量は、時数、学期、学年配分などからみて偏りがなく適切である。 ②表紙をめくると目次になっており、学習内容が見渡せるようになっている。また、巻頭の「教科書の構成」では、教科書の構成マークの意味について説明し、教科書の構成を十分に理解してうえで活用できるようにしている。 ③本文・イラスト・写真・図表等の配分は適切で、かつ関連を持たせた構成にしている。色覚特性に関する専門家の協力のもと誰でも読みやすい工夫がされている。	②生徒が音読しやすいうように、文章は読みやすい3文構成で簡潔にまとめられている。「見つける」→「学ぶ」→「振り返る」という3ステップで構成され、作業手順も明確になっている。学習の流れの中で「基礎知識」「基礎技能」「安全」を学び、考える場面が設定されている。 ②教科書の下段には技能チェック欄で学習の振り返りができるようになっている。 ③一連の流れが写真で示され、キーワードと解説が適切に示されている。
イ 教科・種目別の観点	① 実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	①生徒自身の問題解決に導くために、「問題の発見、課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「評価、改善・修正」の流れを統一的に示すとともに、「問題解決カード」としてワークシート例が掲載されている。これにより、見通しを持って課題に取り組むことができる。 ①問題解決に必要な基礎的な技能を「TECH Lab」にまとめて掲載し、問題解決の際に選択して活用することができる。	①各工程で学ぶべき基礎技能や作業のポイントが大きな写真付きで詳しくまとめられている。また、設計・計画の流れを各編共通の4ステップ（問題の発見、目的・条件の設定、構想・計画の具体化、計画のまとめ）にまとめることで、生徒が問題解決の力を養えるように工夫されている。 ①巻末に付属した設計計画表では、生徒個人の設計・計画を、手順を踏んで自らまとめられるようにし、問題解決の力を定着させられるように工夫されている。
	② 「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	②技術分野のガイダンスにおいて、技術の見方・考え方が「最適化の窓」として示されている。この「最適化の窓」をのぞき、生活や社会における技術を見ることで、技術の工夫に気付くことができるように配慮されている。 ②各編1章の章末には「チェック 技術の見方・考え方」があり、その章で学んだ技術の見方・考え方についてまとめるとともに、2章の問題解決における「問題の発見」につながるよう工夫されている。	②1・2・3章の構成を学習指導要領の(1)(2)(3)に対応させることで、生徒の発達段階に応じて技術の見方・考え方を、関心の喚起から技術の活用へと徐々に育まれるように工夫されている。 ②学習ごとの冒頭の「めあて」と、ページ末の「振り返る」が対応しているので、生徒自身での学習の振り返りが取り組みやすくなっている。また、編の終わりには、観点別に「まとめ」と「振り返り」ができるよう工夫されている。
	③ 既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	③問題の発見や課題の設定の際に、考えや意見を整理する手段として、フィッシュボーンや5W1Hなどの思考ツールを紹介している。また、ブレインストーミングやKJ法でのアイデアを多く出す方法も紹介している。 ③各編の導入において、身の回りの製品や社会における技術の最適化について取り上げ、「技術の見方・考え方」によって、既存の技術の工夫を読み取ることができるように工夫されている。	③技術のプラス面とマイナス面を理解して、わたしたちの未来の社会につなげることができるように、生徒が自らの問題としてとらえることができるような資料が充実している。 ③各編のまとめでは、技術の役割や活用についてまとめることで、これまでに学んだ技術の見方・考え方を働かせたり、技術の問題解決について考えたりまとめることで、思考力・判断力・表現力の評価ができるよう配慮されている。

	発行者の略号	開隆堂	
	書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①実践的・体験的な学習活動を豊富に設定し、その活動を通して生徒が自立して主体的により良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて必要とされる基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるように編集されている。 ①各内容とも「導入」→「基礎学習」→「展開」→「まとめ・評価」の順で系統的・発展的に編集されている。	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①幅広い知識と教養の基盤となる、技術分野の基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるようにするとともに、生活の中の真理を追究できるようになるために、科学的な根拠をもとに、技術を理解・習得できるようにしている。 ②「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する」問題解決的学習を通して、創造性や自主性及び自立性を養うことができるようにしている。 ③創造・工夫する力、他者とかかわる力、知的財産権を尊重する態度、技術にかかわる倫理観、綿密さへのこだわり、忍耐強さなど具体的な育成を図ろうとする工夫が見られる。	
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①技術に関する進路や職業に関する話題が充実していて、「小田原市学校教育振興基本計画」の『キャリア教育の推進』に対応している。技術との関わりについて考えながら、職業観を育み、勤労を重んじる態度を養えるようにしている。 ②基礎的・基本的な内容を中心に、豊富な資料により視野を広げているので、「箱根町教育基本方針」の『かしこく～基礎・基本の定着～と～思考力・表現力の育成～』を培う教育を行うことができる。	
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①問題解決的学習を通して、創造性や自主性及び自立性を養うことができる。各題材にQRコードを記載し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ②「リンクマーク」を用いて他の内容との関連、他教科、小学校との関連を表している。 ③成果の発表や自己評価、相互評価を行うなど、言語活動の充実と言語能力を養える工夫がされている。学習のまとめごとに「振り返り」が設定されている。情報の内容では、外来語や略語が本質的に理解できるよう、英語の綴りが併記されている。 ④日本の伝統的な技術を知り、先人の知恵や技能が日本の文化を支え、発展させてきたことの理解を通して、日本の伝統と文化の素晴らしさを理解し、自らの生活の中で継承・発展できるようにしている。 ⑤実習を行う際には、科学的な原理・法則、などを踏まえて計画・設計し、身体的な技能などを用いて具体的なものが創造できるようになっている。 ⑥両立が難しいときに、何を重視するかを決定するトレードオフの関係に気付ける「トレードオフマーク」を掲載し、繰り返し学べるようにしている。また、最もよいバランスに「最適化」するように考えさせている。その他、「安全」「環境」「防災」などのマークで留意点を分かりやすくしている。	
	(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①系統的・発展的に組織されており、分量・配分は、授業時数や多様な指導計画などに適応できる。特定の事項・事象・分野などに偏らず、全体的に調和がとれている。 ②「学習項目の目標」「基礎的・基本的な内容の習得」「学んだ知識や技術を生活に活かす学習の展開や工夫」の順に構成されており、使いやすくなっている。 ③図、イラスト、写真を用いてわかりやすくまとめられ、カラーUD、UD フォントを採用するなど、インクルーシブの視点で編集されている。	
イ 教科・種目別の観点	① 実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	①「気付く→はたらかせる→定着させる」の3つの活動を通して「技術の見方・考え方」を身に付けさせる内容となっている。題材も、身近な製品やサービスなどから「技術の見方・考え方」を解説している。 ①技術的に考えられるよう、「工夫」「技術の仕組み」「科学的な原理・法則」にわけている。 ①作業では、修正が必要な場合にも対応できるよう、修正方法を取り扱っている。	
	② 「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	②ガイダンスのページでは、「技術の見方・考え方」を取り上げ、各編で深めている。 ②身近な製品の工夫を取り上げ、製品と結びついた発問や解説を取り入れることで、具体性のある知識を身に付けさせる工夫がされている。 ②実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定して、解決を図る力を身に付けることができるように工夫している。	
	③ 既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	③実習例では、問題の発見と課題の設定が記載され、学習と社会との関連が分かるようになっている。また、これからの技術について考えさせられるような話題を取り上げ、将来的な技術への関心・課題意識につながるよう工夫されている。 ③実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定して、解決を図る力を身に付けることができるように工夫している。	

